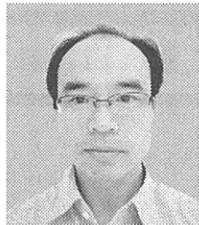


埼玉経済



おの はじめ 1971年生まれ。東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。博士(理学)。日本学術振興会特別研究員、東京理科大学理工学部講師を経て、13年から現職。専門は微分幾何学。

サイ・テク 知と技の発信 こらむ

埼玉大学・理工学研究の現場

[351]

きれいな形の先には

小野 肇 准教授

毎年何人かいます。彼らの選択の場合も、嫌い・苦手が高く分厚い壁を作ってしまったわけです。

■ 幻の壁

私は現在数学を研究していますが、かく言つ私も、学生時代は理科が苦手だという理由で数学科を選び、代数と解析が苦手だったため幾何学を学び始めました。

ところで、一般に幾何学といふと、三角形や円などの平面图形を想像するかもしれません、我々数学者は、曲線や曲面をより高い次元に一般化した多様体と呼ばれる图形について調べます。この多様体にはさまざまな種類のものがありますが、それ自身には「形」の情報は含まれていません。リーマン計量と呼ばれるものを与えることで多様体の形が定まります。

■ 徐々に低く

そして、そのような問題の周辺をいます。

私は現在数学を研究していますが、かく言つ私も、学生時代は理科が苦手だという理由で数学科を選び、代数と解析が苦手だったため幾何学を学び始めました。

ところで、一般に幾何学といふと、三角形や円などの平面图形を想像するかもしれません、我々数学者は、曲線や曲面をより高い次元に一般化した多様体と呼ばれる图形について調べます。この多様体にはさまざまな種類のものがありますが、それ自身には「形」の情報は含まれていません。リーマン計量と呼ばれるものを与えることで多様体の形が定まります。

■ 徐々に低く

そして、そのような問題の周辺をいます。

また、ケーラー・アインシュタイン計量と呼ばれる特別なケースでは、この偏微分方程式に解があると、等価であるという大きな予想が最近証明されました。つまり、少なくともこのよつた問題について、今まで何の接点もないと思っていました新しい分野と幾何学との関連にも興味が出てきました。

これまで来るのに大変な回り道をして、かなり多くの時間が無駄になりました。最初から後悔してもほじまりました。しかし、いついただけでも、そんな壁なら苦手の壁なんか作りなければなりません。なんども後悔してもほじまります。せんが、これから若い方々にはぜひそんな幻の壁には惑わされないで活躍される」と願っています。